# 健康通信

～小牧市民病院より～

## 手術前後のお口の管理について

歯科口腔外科医師
松下　由依

歯科口腔外科では、新病院となってから本格的に患者支援センターと連携を行い、全身麻酔で手術をする患者さんに対してお口のチェックを開始しています。

全身麻酔で手術をする場合に、お口のチェックやお口の管理がなぜ重要になるのか説明します。

### 歯の損傷の危険性回避

全身麻酔の際、「気管挿管」といって、呼吸管理のためのチューブを気道（息の通り道）に口あるいは鼻から挿入します。

チューブを入れる際に揺れている歯や、虫歯等で弱くなっている歯がある場合、歯が抜けてしまったり、欠けてしまったりといったトラブルが起きる危険性があります。

手術前にそのような歯がないかをチェックし、保存不可能な歯は抜いてしまう、保存可能な歯は隣の歯と接着し固定する、手術の際に使用する歯の保護用マウスピースを作る等の対応を行っています。

### 手術後の合併症予防

手術後の合併症として代表的なものに肺炎が挙げられます。清掃不良のお口の中は細菌の温床となっており、特に歯に付着するプラーク（歯垢）は1グラムあたり1、000億個もの細菌からなるとも言われています。手術前後にお口の清掃をすることによって術後の肺炎の予防効果があると報告されています。

また、心臓の人工弁・股関節や膝関節といった人工関節等の手術ではお口の中の細菌が歯肉等の血管から全身の血流に乗り、人工弁や人工関節に感染を起こす可能性があり、より厳重な予防や対策が必要となってきます。

以上、説明してきたことが手術に伴う周術期口腔機能管理と呼ばれています。

お口の健康は全身の健康にもつながります。そのため、手術前後だけではなく日頃からかかりつけ歯科医院を定期的に受診し、お口の管理を受けていただくことが重要と考えています。きちんと管理ができていると、より良い状態で手術に臨むことができます。

かかりつけ歯科医院がない患者さんや通院をやめていた患者さんには地域の歯科医院と連携を取り、受診を促す取り組みもしています。

周術期口腔機能管理を行うことにより入院期間の短縮や患者さんのQOL（生活の質）の向上につながり、患者さんが全身と口の関わりを知るきっかけになれば幸いです。

問合先　市民病院（☎76・4131）